



2017 8
えんだより

社会福祉法人 恵泉福社会
光の子保育園
園長 長島 博樹

主 題 気持ちよく

月のねがい

- 平和を願い、祈る。
- 家庭や保育者とゆったりとした夏の生活を送る。
- 色々な人に出会い、心を通わせる。

おことば

あなたのみ言葉は、わたしの道の光 私歩みを照らす灯火です
(詩編119編105節)

行 事 予 定

8 月

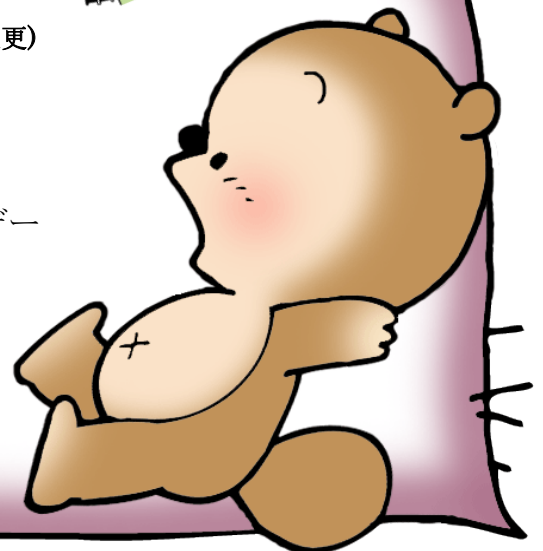
- 10日(木) ランチデー
- 11日(金) 休日「山の日」
- 15日(火) 流しそうめん (ファミリー)
- 16日(水) 流しそうめん (未満児)
- 19日(土) ひかりのこまつり
- 23日(水) 5・3歳児プール
- 24日(木) 4歳児プール

(プールは雨天の為 16・17日より変更)



9 月

- 02日(土) 8・9月生誕生会
- 04日(月) ブラッシング指導
- 07日(木) ぶどう狩り・ランチデー
- 08日(金) 祖父母会
- 18日(月) 休日「敬老の日」
- 19日(火) 運動会練習開始
- 23日(土) 休日「秋分の日」



一期一会

急に涼しく不安定な天気となったり、様々な国ではテロや差別、ミサイルといった不安な情勢に心を痛める今年の夏。終戦記念日を迎え、二度と同じ間違いを繰り返さない様、冷静さと賢い視野を求められる時代であると感じます。子どもの教育の世界も今変化の時代、研究者や実践者によって、様々な子どもの教育感、価値観があふれる時代、何を主幹として目指すのか模索しているように思われます。

保育通信 2016年8月号 - 全国私立保育所同盟発行 - 「乳児期の教育について考える」の中で宮里六郎先生（熊本学園大学教授）は「保育は福祉です！暮らしです！」と力強く書かれています。

「今子ども達はあまりに強すぎ、そして早すぎる大人のまなざしに疲れ切っているように思えます。そして10時間を超える長い時間、100名を超える大規模な集団の中で、一人でほっとする時間や場所もなく、緊張して疲れているのです。家でも保育園でもホッとできないのです。子どもの権利条約第31条の休息権が保障されていないのです。」

と書かれています。休息権は成長発達の為の意図的な活動だけでなく、何もしない事も必要であり、価値があると伝えています。

光の子では、毎年子ども達に休息の時間を考えて頂けるご家族が多いように思われます。今年も夏に、またお仕事がお休みの時はもちろん、家族と夏の経験・体験をするために、家庭の時間を沢山作って下さいました。子どもたちはご家族と過ごされた夏の思い出を生き生きと話してくれました。おじいちゃん、おばあちゃんと過ごしたこと、海やキャンプと充実した家族との手ごたえのある経験をする機会や、ご家庭で何もしない時間を積極的に持ってください、子ども達の学びの時間と休息の時間のメリハリが大きな活動意欲の原動力となって、生き生きと表情に表れています。休息の時間は学びの熟成時間となっているからでしょう。その時「行ったところ」「出会った人」「体験」は、その年齢のその時にしか味わえない様々な喜怒哀楽の感情となり、感性に宿ります。子どもの時にしか味わえないものの方が多いからです。

このような意味で、夏祭りもその一つであり、夏は特別に味わい深いものがあります。毎年子ども達の為に梨を沢山贈って下さる、おじいちゃん、おばあちゃん。卒園してまで、わざわざ大きなスイカを届けて下さるお母様。暑い中、「太鼓演奏を当日は見られないので」と涙を流して見学して下さるおばあちゃん。太鼓練習を頑張っているからと、手作りおやつを作ってきて下さる幸子先生。そして、毎年ボランティアで太鼓指導をして下さる柴田先生など、このような暖かい方々と心の交流が出来る一年に一度の機会でもあります。

鯨岡峻先生（中京大学教授）は、《※ 保育通信 6月号 - 全国私立保育所同盟発行 -》の中で、

「子どもと大人の関係性の中で何よりも大事なものは、目に見える行動的なかわりである以上に、子どもと大人の間になんかの心と心の交流が起こることです。「愛する—愛される」というような幸せな関係ばかりではなく、時には「むずがる—腹を立てる」といった負の関係性をしばしば伴います。…そしてそれがどのような成り行きになる」かによって、子どもの正負の心の育ちにつながり、また育てる個の大人の正負の心の育ちにつながり…その大人の人格に結晶化するのです。…

・・・保育や子育て支援の営みはどこを切り取ってもそれに関係する人の「関係発達」が見えてくるはずでず。子どもも親(保護者)も保育者も支援者も、みな関係発達の途上にある人です。一方では目に見える行動上の変化を伴いながら、他方では目に見えない喜怒哀楽の心に動きを経験し、それを自分の人格の中に溜め込んで、一人の人間(主体)として社会の中で成長し続けていきます。これがそれぞれのひとの人生なのです。・・・

大人もまた周囲の人との関係の中で成長途上にある人だというのが関係発達の基本的な考え方です。・・・

・・・中でも何より重要なのは、子どもや大人が周囲の人との関係の中で、心に抱く信頼感と自己肯定感だと私は思っています。それはいったん出来上がってしまえばずっと持続するという性質ではなく、崩れかかっては修復されるという危うさを伴った心の動きです。

この二つの心が人の内部で動けば、人は前向きに生きてゆくことができますが、もしもこの二つの心が動かなければ、人は後ろ向きに生きざるを得なくなってしまうでしょう。

そうしてみると、子どもの健全な育ちの条件も、大人の社会の一員としての育ちの条件も、それぞれの関係発達の中で、この二つの心がいかに動くかだと言っても過言ではありません。・・・

今、周りとの協調性、粘り強さ、失敗でしてもくじけない心など「非認知的な力(心)の議論が盛んになっていますが、その中心には信頼感と自己肯定感が無ければ、これらの非認知的な心は決して定着しません。

このように子どもと大人の関係性は、大人が完成した存在として「育てる \leftrightarrow 育てられる」という定型発達ではなく、心の交流を元にして育ち合う関係発達が重要であるといわれています。

保育の営みも子育て支援の営みも、本来は、子どもと大人の関係性のありようばかりではなく、大人同士の関係性が問われる営みですが、そこに心の交流の問題が十分に含まれてこないからこそ、単に、・・・支援の行動が手厚くなればよい、支援に携わる人の数が増えればよいというような表面的な議論に流れてしまっているのではないのでしょうか。

<著者 ※参照>

上記の鯨岡先生の書を読んでいて、多くの保護者の方々の顔が浮かんできました。今年の軽井沢キャンプでは、保護者の方々にたくさんの準備と支援を頂き、子どもたちも充実した3日間を過ごすことができました。キャンプの山登り練習に、春からチューリップ祭り会場や七井戸公園まで徒歩で遠足に行きましたが、子ども達が進む道の途中には、K君のお母様がスイカを小さく切って、子ども達の口に入れてくれたり、Mちゃんのお母様がゼリーを凍らせて待っていてくださいました。子ども達の頑張りと一緒に寄り添い心を動かしてくださる保護者の方々、またキャンプの帰りには皆様でアーチを作って子ども達を迎えて下さった保護者の方々を。

今年父の日のテーマとして「時の経過を共感する」活動を作品にしました。りす組モンテの父の日プレゼントは梅シロップ作りでしたが、各ご家庭で熟成され、楽しんでいただけていることを連絡ノートで拝見し、時の経過をゆっくり楽しんでいただけていることを嬉しく思いました。その後、Aちゃんのお母様から、「父の日の梅シロップで取り出した梅で、ジャムを作りました」と梅ジャムをおすそ分けしていただき、文化的活動が御家庭に育まれていることに感動いたしました。

人が育つのは関係の営みに・・・生まれる喜怒哀楽を潜り抜けることによって・・・どのように心を動かせるようになるかなのです。」とあります。

<著者 ※参照>

育つことの中身は、これまで「力をつけること」と考えられてきましたが、長い人生を考えた時、力である以上に人として前向きに生きるという事だと、鯨岡先生が強く示しています。人との関わりを無くして人は育ちません。そこに自分の都合、自己主張ばかりでは前月号の園便りに書かれた「心の可動域」を狭め後ろ向きに生きざるを得ません。

今年も夏祭りがやってきます。お忙しい中であっても、子ども達の今しかない夏の思い出にと、お化け、ゴスペル、ファイヤーマンと子ども達に心を傾けて、保護者の皆様が準備してくださっています。きっと、この夜子どもたちにはドキドキ、ワクワクや楽しさ、喜び、挑戦といった心が生まれ、大人と子ども、子ども同士、大人同士の心の交流が育まれることでしょう。

特に今この心の交流が平和の一步と祈りを込めて「家族のおへそ」(子どもの成長)に心を止めて、お祭りを楽しみたいと思います。